

せ ん

ぼ 通信 No.42

ば・あ・や・の・う・け・う・り

「春彼岸」

福島市出身の詩人・「長田(おさだ)弘」さん、
テレビの対談では…優しいまなざしのおじい
さんでした。 そんな長田さんの詩集から、

「奇跡ーミラクルー」(長い詩なので省略)
春になって、梅やボケや花たちが、自分を誇る
ことなく、自ら見事に生きられることを奇跡…
と、うたっています。

その長い詩の中にあることばから…

朝おきて、空を見上げて、
空が天の湖水に思えるような
薄青く晴れた朝がきていたら、
もうすぐ春彼岸だ。
こころに親しい死者たちが、
足音も立てずに帰ってくる。

たしかに…春のお彼岸はしずか…黄色の花を
見て、ああ…春だなあ…って思うような感じ。
当たり前のことですが、
歳を重ねるごとに、胸の中に住む人がふえてき
ました。そして、空を見上げて…目を閉じて…
たいせつな顔や声が…浮かんできます。

愛しさと…せつなさと…やさしさをつれて。

栃山神の「白寿」のお二人

円谷勇さん…6月に100歳に。

田母神キミさん…2月に99歳に。

おめでとうございます。

なので…高齢者の食事会で、
サプライズの「白寿」のお祝いを。
お花をプレゼント…参加者50名で
ハッピーバースディ…を大合唱。
社協の職員さんが、「99歳ってどなた
?」…って思うほどお元気。

ちょっぴり…恥ずかしそうなキミさん
は、今もしめ縄作りのプロ。

来年は、「100歳」のお祝いです。
また、みなさんで歌いましょうね。

キミさんパワーを待ってますよ。
単純計算で、

99年×365日=36135日

田村町+三春町の人口=約36000人

その人達に、1日一人ずつ面会すると、
99年かかることに…。

7年前の3・15の朝…怖かった…

だって…原発が次々爆発するんだもの。

6時半に、会津に住む夫の妹に電話。

「大丈夫…早く連れて来たら…」と。すぐ避難の準備。

「こんな事なくても…」と言う夫を無視して、

妊婦の娘と、二人の幼い孫を、放射能の雨から

守らなくては…と急ぐ。

昼過ぎには、夫と孫たちを会津へ送り出す。

あれから7年…ママのお腹にいた孫が、

4月には…ピカピカの1年生に。

あの時の怖さは…ボケるまで…水には流せない。

作ったエライ人たちが…あの時も今も、

後始末もわからないから。 やだやだ…。



春の使者を…大切な友よりいただく

〒963-1245 郡山市田村町栃山神字千穂128 TEL: 024-975-2415 FAX: 024-975-2466

2018・3・1

遠藤商店

編集: ミサ子 mail: kaikuu-0305@ezweb.ne.jp